



やまね・かずま ノンフィクション作家、福井県東  
横博物館特別館長。北九州博覧祭北九州市パビリオン  
、愛地球博愛知県総合プロデューサーなど多くの博  
覧祭、万博を手がけてきた。近刊は「スーパー望遠鏡  
「アルマ」の創造者たち」。山根一眞の科学者を訪  
ねて三千里（講談社）などを連載中。理化学研究所  
名誉相談役、JAXA客員、福井県文化顧問、獨協大  
学環境共生研究所客員研究員、日本文藝家協会会員。

韓国は、東京五輪出場の自  
国選手たちに、ホテルを借り  
きって設営した給食センター  
で作った弁当を提供してい  
る。福島産の食材には放射能  
汚染の懸念があることが理由  
の一つという。

韓国は福島県など8県の全  
水産物に対して厳しい輸入規  
制を続けてきた。日本は、そ  
の規制に対して世界貿易機関  
(WTO) に提訴。紛争処理  
小委員会(パネル)はWTO  
協定違反と判断したが、その  
後、上級委員会は一審判断を  
取り消した。

WTOの判断はともかく、  
東京五輪の食事に「くわすか  
でも放射能汚染の不安がある  
なら、韓国の報道陣は事前に  
福島県の生産農家や魚市場を  
徹底取材するべきだった。き  
ちんと取材すれば生鮮食品  
に放射能汚染の心配がないこ  
とがわかってしまうので、あ  
えて取材しなかったのかなと  
も勘ぐってしまふ。

「3・11」の巨大津波によ  
って福島第一原発が大破綻を  
きたし、原子炉の1、2号機  
の排気筒から大量の放射性物  
質が福島県内に拡散されたこ  
とは事実だ。この原子力災害  
に福島の人々はどれほど苦し  
んできたことか。だからこそ  
この10年、生鮮食品は出荷  
前に厳重すぎるほどの放射能  
測定を続け、安全を確認した  
上で出荷してきた。

私は3・11の直後、懇意の  
福島県の手廻りスパーチェー  
ン「いちい」(本社・福島

# 報道せず恥じ強勉の不測定放射能 弁当団選手韓国



⑤テクノヒルが提供した微量放射能測定器。自然放射線のノイズを遮断するため厚さ約50<sup>mm</sup>の鉛遮蔽体で囲われており、質量240<sup>kg</sup>と持ち上げられないほど重い。⑥テクノヒルの鈴木社長。⑦いちいの伊藤社長(山根一眞撮影)

市)の伊藤信弘社長から生鮮  
食品の放射能汚染対策につ  
いて相談を受けた。そこで、  
放射線測定機商社、テクノヒ  
ルの代表取締役、鈴木一行さ  
んを紹介した。

「3・11」の直後、菌床シ  
イタケに「残留放射能あり」  
という初の大々な報道も、  
「いちい」が検出した成果だ  
った。検査開始から半年後ま  
でに一部の生鮮食品で「安  
全基準値以下の数値」が出た  
ことはあったが、以降約8年  
間「不検出」が続いたため、  
検査の必要がないほどの安全  
が確認されたとして、検査は  
19年に終えている。

「いちい」の検査では、き  
わめて難しい技術によって粉  
砕した食品を測定機に入れ、  
1時間かけてやっと測定デー  
タを得ていた。「韓国弁当」  
のニュースを伝えた韓国のテ  
レビは、不勉強ぶりを反省し  
ているのだろうか。



「日本の元氣」の  
過去記事はスマ  
ホでお読みいた  
できます。QR  
コードでアクセ  
ス!